

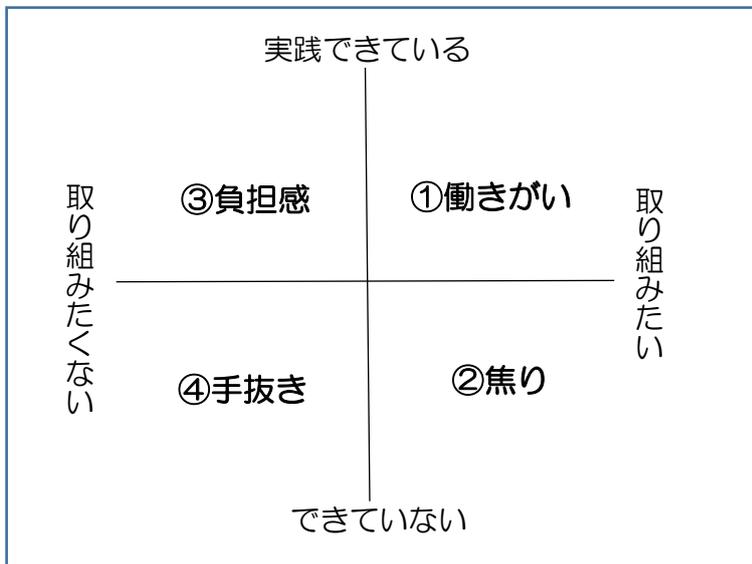
負担感をつくる「4つの欠如」

2023・11・22 重枝 一郎

最近、「ワーク・エンゲイジメント（校長研修だより114号）」について書くことが多い。「働きやすさ」と「働きがい」。このバランスは難しいが、そこで働く人たちの実態に合わせて改善していかななくてはならない。「働きやすさ」をつくるには、ルールを強める必要があり、「働きがい」を高めるには、ルールを弱める必要がある。だから難しい。ただ、私たち教師の職業は、「働きがい」を維持しつつ、業務改善を図っていくやり方になる。

業務改善を図る場合、業務を一律に削減してもうまくいかない。なぜなら、一人一人見えている、感じていることが違うからだ。だから、それぞれが負担感のある業務や不要だと思う業務を見える化し、理解し合い、相互支援できるようにしていくことが大切なポイントになる。

「ワーク・エンゲイジメント」で紹介した、愛媛大学の露口教授の「業績分析シート」は下のようなプロット図である。（先々週、本校初任研においてグループワークで実施）



この4領域は、① 取り組みたいことがやれているという「働きがい」、② やりたいけどやれていないという「焦り」、③ やりたくないけど仕方なくやっているという「負担感」、④ やる必要性を感じないという「手抜き」に分類される。このシートに具体的な業務の付箋紙を貼っていく。それを個で取り組み、グループで話し合うというワークである。

例えば、A先生は「ICT活用」を「① 働きがい」のところに置く一方、B先生は「③ 負担感」のところに置くようなことがある。

このような場合は、相互支援という形が望ましい。また、「入試の採点」を「③ 負担感」に多くの先生が置いたとする。このような場合は、「削減」か「業務委託」のような形を検討することになる。ちなみに、「入試の採点」なら本校でも話題になっている「採点ナビ」の活用みたいな感じになる。以前異校種体験で来られた福岡市の公立の先生は、福岡市では本年度から導入されていると言っていた。

さて、グループでの話し合いは、「③ 負担感」の領域をメインに話し合うことになる。この「負担感」を生じさせる要因として4つ挙げられる。

- ① 目的性の欠如（生徒とのかかわりがなく、する理由がわからない）
- ② 限定性の欠如（いつ終わるかわからない）
- ③ 主体性の欠如（提案がない、改善の余地がない）
- ④ 関係性の欠如（その人と仕事がしたくない）

この「4つの欠如」については、腑に落ちるところが多いのではないだろうか。

私の一昔前を想像すると、「働きがい」を感じる業務として、「授業」「部活動」「道徳の時間」「生徒指導」等を書いていたと思う。「負担感」のある業務として「会議」「ICT」などを書いていたかもしれない。昔、職員室の柱に「長い会議は身体に悪い」という標語を勝手に作って貼っていた（笑）。ある意味で見える化（笑）。